

共同体感覚と応報性が演劇サークルに おけるカンパに与える影響について

田代陽太郎^a, 万波航平^b, 山下友花里^c

2019 年 2 月 4 日

要約

大学の演劇サークルの公演の中には、カンパによって利益を出している公演がある。払う必要のないカンパを行うという一見非合理的な経済行動を共同体感覚と応報性という世界観で説明できるのではないかと考え、本研究は行なわれた。本稿では、共同体感覚と応報性が強い人ほど演劇サークルの公演で多くカンパをするのではないかという仮説に基づき、大学の演劇サークルのある公演で観劇者を対象に 31 件の有効回答を得た。アンケート結果から、共同体感覚と応報性の強弱とカンパ額のデータを得、単回帰分析と重回帰分析を行った。結果、公演に対して共同体感覚を強く抱いている人ほど多くカンパをしていた。また、応報性とカンパ額の関係調べたところ、カンパしている人は報いるべきという義務としての応報性ではなく、報いたいという選好の応報性として行っているという傾向がわかった。

キーワード：共同体感覚、応報性、カンパ、社会的選好

JFL 分類番号：D9

^a amykh@keio.jp

^b kouheiman@keio.jp

^c yukari_yamashita@keio.jp

目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 研究方法とデータ
4. 結果
5. 考察
6. 終わりに
 - 6.1. 結論
 - 6.2. 研究の改善点
 - 6.3. 今後の展望

付録

引用文献

1. はじめに

商品やサービスには金額が設定されており、享受した分に応じて対価を支払う。これが主流となっている経済行動の流れである。例えば、飲食店で食事をする際には代金を支払う。演劇を鑑賞する際にもチケット代金を支払って鑑賞する。しかし、現在チケットを購入せず鑑賞者が任意の額を支払うことで成立している公演もある。すなわちカンパによって成立している公演である。伝統的経済学の視座に立つと、カンパによって成立する公演があるという状況を説明することができない。なぜならば、経済的合理人ならば0円で同じ品質の演劇を享受できるならば0円で鑑賞し、それ以上の額を自分から払うことはしないからである。しかし、実際にはカンパによって採算を取っている公演が存在し、中には利益を生み出している公演もある。私たちはこの「カンパ」という経済行動に注目し、世界観を用いて説明することを目標とした。世界観とは、ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関する認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組みである。先行研究は、「世界観の経済行動への影響の文献の概観が大垣・田中(2014, 9章)にある。」

また、カンパに影響を与える世界観について考えた結果、以下二つの世界観がカンパに大きく影響を与えているのではないかという仮説を立てた。一つ目は、所属感・信頼感・貢献感・自己受容の四側面で構成され、家族や部活といった自分の所属している共同体に対して抱く共同体感覚である。特に共同体に対する所属感や貢献感に焦点を当てて研究を進めた。二つ目は、他人から何らかの施しを受けた際に、お返しをしなければならないという感情を抱く世界観である義務感としての応報性である。具体的には、人に誕生日プレゼントを貰った場合、それに対してお返しをしなければならない、お返しをし

たいと思うかどうかというような内容である。義務感としての応報性に関して、「人から何らかの施しを受けた際に、お返しをしたい」という社会的選好としての応報性にも注目する。社会的選好とは、ある個人の選好を表す効用関数に自分の消費や利得だけでなく、他者の消費や利得が変数として入っているような選好である。先行研究は、「社会的選好の経済行動への影響の文献の概観が大垣・田中(2014.8章)にある。」

以上の二つの世界観を用いて、「共同体感覚と応報性が強い人ほど演劇サークルの公演で多くカンパをする」という仮説を立てた。共同体感覚が強い人ほど、特に共同体感覚の中の貢献感が作用しカンパを多く行うようになるのではないかと考えたからだ。また、応報性に関しては、公演を鑑賞させてもらったからには何か自分も演劇サークルに対してリターンを返さなければいけない、返したいと考えカンパを行うのではないかと考えたためである。

2. 先行研究

本稿の世界観である「共同体感覚」と「応報性」について。それぞれ先行研究をもとに定義し研究を進めた。一つ目の世界観である共同体感覚は精神科医・心理学者・社会理論家である Adler の個人心理学における中心概念の一つであり、「他の人の目を見て、他の人の耳で聞き、他の人の心で感じる」という言葉によって定義されている(Adler, 1927)。また、橋口(2018)では、3大学の学部生に対して調査を行い、大学生用共同体感覚認知尺度暫定項目 20 項目に対して探索的因子分析を行ったところ 2 因子が抽出された。第一因子は貢献への決心、第二因子は他者への関心であった。さらに、野田(1998)は共同体感覚を「所属感」、「信頼感」、「貢献感」、「自己受容」の 4 側面で構成されていると定義した。このように、共同体感覚は複雑な要素が絡み合った概念であり、研究者によって定義が異なっている。本稿では主に高坂(2011)の共同体感覚の定義に沿って研究を行った。高坂(2011)では、野田(1998)の定義をもとに大学生・中学生を対象にアンケートを行い、「所属感・信頼感」、「自己受容」、「貢献感」の三因子が抽出された。この中でも、特に本稿では共同体に対する所属感や貢献感に焦点を当てて研究を進めた。

また、二つ目の世界観である応報性にも多くの論文で定義が述べられている。まず、鳥居(2016)では返報性として「君が協調(裏切)するなら僕も協調(裏切)する」という行動戦略をいう、と定義されている。また、建宮(2017)では、返報性として相手から先に恩恵を与えられると返さずにいられなくなる気持ちが自動的に発生することと定義している。このように、応報性は多くの論文で返報性という言葉で定義されることが多い。今回本稿では内山(2007)の相互応報性の定義を用いた。内山(2007)は、相互応報性は利他主義や嫉妬と並んで金銭的利得の犠牲の上に成り立つ社会的選好に含まれ、正と負が定義されるとしている。正の相互応報性とは親切な行為に対しては自分の金銭的利得を犠牲に

してでも親切な行為で対応する選好である。負の相互応報性とは敵対的な行為に対しては自分の金銭的利得を犠牲にしてでも敵対的な行為で対応するという選好である。その中でも本稿では正の応報性に焦点を当てて研究を進めた。

3. 研究方法とデータ

Google Form を利用して質問票を作成し、LINE、演劇会場での QR コードと質問票をプリントしたアンケート用紙の配布によって回答を得た。集計期間は 2018 年 8 月 8 日～2018 年 8 月 10 日の三日間であり、31 件の有効回答を得た。実際のアンケート内容については付録に添付している。質問 1-5 は共同体感覚を問う質問であり、1「全くそう思わない」-6「強くそう思う」の 6 段階でアンケートをとった。6 に近い値ほど共同体感覚の世界観が強い。また、質問 6-11 は応報性を問う質問であり、これも 1-6 の 6 段階でアンケートをとった。6 に近い値ほど応報性の世界観が強い。続く質問 12 では公演との関係を「当公演関係者、当公演関係者のご友人（演劇に携わっている方）」、「当公演関係者のご友人（演劇に携わっていない方）」、「当公演関係者の保護者様」「一般の方」の 4 つの選択肢で質問した。最後の質問 13 でカンパ額を問う内容の質問をした。

質問 1-11 を説明変数、質問 13 を被説明変数として単回帰分析を行った。質問 12 で聞いた関係性によって分類し、単回帰分析を実施するという事も行った。しかし、今回演劇鑑賞者にのみアンケートをとる形になったため、それぞれの関係性において回答数が極めて少なくなってしまうという事態が発生した。そのため、ダミー変数を用いた重回帰分析を行い、真に世界観の大きさとカンパ額の大小の間に関係があるのかということについて、関係性毎に分析した。また、記述統計量は以下の通りである(表 1)。

表 1	平均	標準偏差	最小	最大
共同体感覚	3.887097	0.110299	1	6
応報性	3.064516	0.131275	1	6
カンパ額	326.7742	78.47113	0	2000

4. 結果

表 2 はカンパ額を被説明変数とした単回帰分析の結果である。

表 2 単回帰分析の結果

(有意が出たもの)

説明変数	係数	P 値
4. 多少値が張っても、親切な店員さんの店で商品を購入したいと思う A. 全くそう思わない 1～強くそう思う 6	0.5954	0.01604**

9. この公演を手助けしたいと思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.3240	0.01199**
10. この公演がうまくいくと嬉しい A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.4179	0.03853**
11. この公演に何らかの形で貢献したいと思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.2195	0.00513***

(有意が出なかったもの)

説明変数	係数	P 値
1. 試食をしたらその商品を買わなくてはいけないと思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.1934	0.2638
2. 試着をしたらその服を買わなくてはいけないと思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.1012	0.5018
3. 贈り物をされた時お返しをしなければいけないと思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.6087	0.5984
5. 自分が悪くなくても相手に謝られると謝らなくてはいけないと思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.1646	0.6849
6. 日本代表が勝つと喜びを感じる A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.1272	0.6508
7. 家族にとって私は必要であると思う A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.5776	0.3801
8. 他人を信じがちである A. 全くそう思わない1～強くそう思う6	0.7757	0.2506

被説明変数はすべてカンパ額（円）。対象者は全員。

表2は演劇関係者とそれ以外に分けてダミー変数を用いて重回帰分析を行った結果である。単回帰分析で有意な結果が出た四つの質問について行った。AはY列とX・ダミー

変数の重回帰分析の結果の P 値、B は Y 列と X・ダミー変数・X・ダミー変数の重回帰分析の結果の P 値である。

表 3 重回帰分析結果

説明変数 (X)	A	B
4. 多少値が張っても、親切な店員さんの店で商品を購入したいと思う A. 全くそう思わない 1～強くそう思う 6	0.408043	0.567566
9. この公演を手助けしたいと思う A. 全くそう思わない 1～強くそう思う 6	0.043885	0.685854
10. この公演がうまくいくと嬉しい A. 全くそう思わない 1～強くそう思う 6	0.080489	0.567329
11. この公演に何らかの形で貢献したいと思う A. 全くそう思わない 1～強くそう思う 6	0.019606	0.677367

被説明変数はすべてカンパ額 (円)。

5. 考察

応報性、共同体感覚の両方において有意性のある結果が出たことから、カンパという経済行動に、この2つの世界観が関係していることが明らかになった。具体的には、質問4・9・10・11においてはいずれも有意な結果を得ることができ、質問1・2・3・5・6・7・8においては有意な結果が得られなかった。有意であった質問と有意性がなかった質問を応報性と共同体感覚で分類し比較した際に判明したことは3つある。1つ目は、カンパという行為自体が社会的選好に基づいて行われているため、義務感よりも、社会的選好に即した質問のほうが有意な結果を導く傾向にあるということである。応報性の質問において、有意性があつた4つ目の質問以外はすべて2つ目として今回のカンパ対象が演劇であり、演劇に関する質問がすべて有意であったことから、カンパ対象のテーマに即した共同体感覚は、カンパ行動と非常に密接に関係していることが判明した。3つ目は、ダミー変数を用いた分析の結果、A列においてのみ、質問9で5%有意・10で10%有意・11で5%有意であるという結果が出ていることから、演劇関係者とそうでない人のカンパ金額の上がり幅に関しては、共同体感覚において一定の上昇がみられることが判明した。

6. 終わりに

6.1 結論

今回の研究は、応報性と共同体感覚の2つの観点からカンパ行動という伝統的な経済

学ではうまく説明できなかった経済行動を分析し、いずれも有意な結果を得ることができ、カンパ行動の動機の一部にその2つの観点が含まれることが判明した。結果を2つの観点で比較すると、共同体感覚に関する質問のほうが有意な結果が多かったことから、共同体感覚のほうが応報性よりも密接にカンパ行動に影響していることがわかった。

6.2 研究の改善点

改善点としては主に2つある。1つ目はカンパの調査に関して、演劇の観客の身に対象が限定されてしまうことから、非常にアンケートがとりにくく母体が少なくなってしまう。なので、さらに研究を進めていくにはカンパ行動が行われるより大きなイベントでの集計ができると精密な結果が出ると思われる。2つ目は、カンパ行動の指標を金額にしたため、観客の年齢や職業などの属性の違いも影響している可能性が高く、アンケート調査の時点でその条件を加えておけばよかったと考えられる。

6.3 今後の展望

今回の研究では共同体感覚のほうがより強く結果に反映されたので、被災地やユニセフなどへの募金において人々の共同体感覚に訴えかけるような広報活動を行うことで募金額が増えるのではないかとという仮定が成り立ち、それを検証していくことで社会貢献度の高い研究になりうる。さらに、今回は演劇に関するカンパ行動に関して有意性のある結果が演劇に関するもののみであったことから、仮説として、共同体感覚というものは、自分が属するすべてのものに対して平等にあるわけではなく、属するものへの思い入れや親愛の深さによって変化するものだと考えることができ、それが正しいのか否かにおいて今後の調査で明らかにできればと感じている。

付録

大垣昌夫研究会 4班アンケート

質問 1-11 は全て以下の 6 段階から選択

1. 全くそう思わない
2. そう思わない
3. あまり思わない
4. 少しそう思う
5. そう思う
6. 強くそう思う

質問 1. 試食をしたらその商品を買わなくてはいけないと思う

質問 2. 試着をしたらその服を買わなくてはいけないと思う

質問 3. 贈り物をされた時お返しをしなければいけないと思う

質問 4. 多少値が張っても、親切な店員さんの店で商品を購入したい

質問 5. 自分が悪くなくても相手に謝られると謝らなくてはいけないと思う

質問 6. 日本代表が勝つと喜びを感じる

質問 7. 家族にとって私は必要であると思う

質問 8. 他人を信じがちである

質問 9. この公演を手助けしたいと思う

質問 10. この公演がうまくいくと嬉しい

質問 11. この公演に何らかの形で貢献したい

質問 12. 当公演とのご関係を教えてください

当公演関係者、当公演関係者のご友人（演劇に携わっている方）

当公演関係者のご友人（演劇に携わっていない方）

当公演関係者の保護者様

一般の方

質問 13. 今日の公演でいくらカンパしましたか？下線部に数字を記入してください。

_____円

引用文献

大垣昌夫・田中沙織、2014. 行動経済学 p143、p194

Adler, A. (1927). Psychotherapie und erziehung. Bd. 1. Frankfurt, Germany:
Fischer Taschenbush-Verlag.

橋口誠志郎(2018)「共同体感覚認知尺度の作成」、桜美林大学心理学研究、8巻、49-56ページ

野田俊作(1998)「アドラー心理学トーキングセミナー」アニマ出版社

高坂康雅(2011)「共同体感覚尺度の作成」、教育心理学研究, 59, 88-99 第31巻第1号

建宮登(2017)「インターネットマーケティングにおけるセールスコピーライティングに関する一考察」、第一工業大学研究報告、第29号(2017)pp. 135-142

鳥居拓馬(2016)「不確実な状況における利己的な学習主体の相互協調」

内山登(2007)「相互応報生の存在と経済への影響-ダブル・オークションの経済実験より賃金の硬直性と総余剰改善の考察-」、早稲田大学 産業経営研究所『産業経営』第42号
2007年12月 pp. 101-115